

魅力的なリーダーは、いつだって 70 億分の 1 の物語の主人公だ。

私たちは幼い時から評価されることを当然して生きている。テストが 100 点なら花丸で 0 点なら落ちこぼれ、100 メートル走で 1 着ならクラスでヒーローになれるしビリならもう鬼ごっこに誘ってもらえない。学期末に渡される成績表なんていうのは学生時代の評価制度の最たる物だ。そんな環境で育つことから、大人になっても他者からの評価で感情が大いに揺さぶられるのは当然のことだろう。しかし、国語が 5 だとか数学が 2 だとかは、誰かが勝手に作ったテストという枠の中に当てはめているだけで、果たしてそれが 1 人 1 人の価値に繋がるのだろうか。

尾崎豊は「卒業」の歌詞の中で行儀良く真面目なんかできやしなかった、と歌っている。いわゆる不良少年を彷彿とさせるフレーズだが、だからと言ってそれが悪いと言えるのだろうか。自分自身納得する生き方なのであれば全然問題ないと思う。自分がどうしたいのか、自分がどうなりたいたいのかを問い、実行していくことが何よりも大事なのである。

昨今、SNS でいいね！の数を多く貰ったら勝ち組みみたいな風潮があるし、それによって「自分が支持されている」という満足感を得ている人も多いだろう。しかし、ピッカピカに加工して原型を留めていない自撮り写真に 10000 いいね！がつくよりも、スキンケアを頑張っただけ昨日よりも少しお肌の調子が良くなった自分に自分自身が心からのいいね！を 1 回する方がよっぽどワクワクすると思う。そんな毎日が続けることができたならもうピッカピカの詐欺写真など撮る暇もないくらい人生が充実するはずだ。

そして、そんな自分を誰よりも信頼することがもっと重要だ。人間は生まれてから死ぬまで片時も離れず自分と共に過ごす。親よりも、友人よりも、ずっとずっと一緒にいる。だから、自分を否定的に捉えてばかりだと生きているだけで苦しくなってしまう。仕事でミスを繰り返したり、大好きな人に振られてしまったり、とにかく悪いことが起こると「こんな自分はもうダメだ」と自分を責めてしまう人は多い。しかし、本当に「自分自身」が原因なのだろうか。仕事でのミスも恋人につい言ってしまう文句も、あくまで言動の一部が上手く噛み合わなかっただけだ。決して自分そのものが悪いわけではない。もしも他人から「こんなにミスばかりしてできない奴だな！」とか「そんなこと言うなんて最低！もう別れる！」と言われても、それこそ他者からの評価だ。ただただ、その人からいいね！がもらえなかっただけである。確かに、ミスをしてしまったことや恋人に文句を言ってしまったことは認めるべきだ。その上で、これからどうしていくかを考える、「失敗をしてしまったけど自分なら次に活かしていける」と思うことが自分への信頼だ。

自分を受け入れて信頼することができる、そういう人が自然に周りを巻き込んでリーダーシップを発揮していくのではないだろうか。自分のことを信頼しているから、叶えたいことがあればどんどん行動ができる。自分の望みを自分自身で叶える努力を絶やさない。失敗してもそれを受け止めることができる。正しく「人生のハンドルを握っている」のだ。地球上に 70 億人生きている中でたった 1 つ、自分の人生という名の物語の主人公だ。また、自分の物語の主人公になっている人は他の物語の主人公のことを認めることができる。チームで仕事をする時、例えば今月は店舗でドコモ光〇件達成したい！と本気で目標を立てる時、キャスト全員の力を認めて信頼することができる人が自ずとリーダーになるのだと思う。全員の努力を認め、獲得が伸び悩むキャストのことを叱責するのではなく受け入れて共に考える。声かけのバリエーションが多いキャストがいるなら、どんどん知恵を借りる。そうしていく内に、いつの間にか店舗全体を巻き込んでいくのだ。

物語の主人公になるためには、まず自分をよく知ることが必要である。何が好きで何が嫌いなのか、本当はどうしたいのか、どうなりたいのか。他の誰かが決めた基準は物事を決める上でのバロメーターにはなるが、決して本質ではない。

自分を受け入れてこそそのリーダーだ。そして、決して何でもできるスーパーマンじゃなくていい。物語の主人公は、沢山泣いたり落ち込んだりしたあとに思い切り笑うのが、最高にカッコいいのだ。